

母性看護学実習／3 学年

1. 実習目的

周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、対象（家族含む）に必要な援助と保健指導を行える基礎的能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的な経過を理解し、基本的な援助ができる。
- 2) 妊婦・産婦・褥婦およびその家族に対する保健指導ができる。
- 3) 母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の諸機関との関係について理解を深める。
- 4) 生命誕生の場面や母性看護の対象を通し、家族の役割や生命の尊厳について考え、自己の母性（父性）意識を高める場とする。

3. 実習内容

一般目標	行動目標	実習内容
<p>1. 妊娠の生理的変化を理解する。 (実習目標1)</p>	<p>1) 妊娠経過に沿った生理的変化を述べることができる。</p>	<p>(1)妊婦健康診査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠週数 分娩予定日 ・子宮底長 腹囲 体重 ・浮腫 血圧 尿蛋白 ・胎児心音 ・レオポルドの触診法 ・乳房の観察 <p>(2)診察、検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超音波検査 NST ・血液検査 ・内診所見（ビショップスコア） ・胎児胎盤機能検査 <p>(3)記録、母子健康手帳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢 家族歴 既往歴 ・妊娠歴 日常生活状況
<p>2. 妊婦健康診査の目的を理解し、母体と胎児の変化に応じた保健指導の必要性を理解する。 (実習目標1、2、3)</p>	<p>1) 対象の日常生活と関連づけた保健指導の必要性について述べることができる。</p>	<p>(1)妊婦への保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査の必要性と諸届の内容 ・生活指導 ・不快症状 ・乳房の手当て ・喫煙、飲酒 ・勤労についての指導 ・マタニティ教室の案内・見学 ・分娩に向けて物品の準備 <p>(2)異常妊婦への保健指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪阻 妊娠高血圧症候群 ・貧血 切迫流早産 ・骨盤位 <p>(3)心理・精神状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の受容 ・心配事、悩み、不安 ・家族の理解、サポートの有無

一般目標	行動目標	実習内容
3. 分娩の生理的変化を理解する。 (実習目標1、2)	1) 分娩経過に沿った観察や援助を行なうことができる。	(1)分娩第Ⅰ・Ⅱ期の観察と援助 <ul style="list-style-type: none"> ・陣痛の測定 児心音聴取 ・羊水の観察 出血量の測定 ・子宮口開大 児頭の下降 ・破水 排臨、発露 ・バイタルサインの測定 ・一般状態 産婦の訴え ・産婦の努責、体位 ・産婦に対して呼吸指導、補助動作 ・産痛の緩和 ・水分補給 ・外陰部の清潔 ・導尿、浣腸 ・会陰切開 ・産婦の心理的変化、精神的慰安 ・分娩機転と胎児の娩出様式 ・家族への援助
	2) 出生直後の新生児の観察や援助を行うことができる。	(1)出生直後の児の観察と援助 <ul style="list-style-type: none"> ・胎児娩出時刻 ・第1呼吸の助成 ・アプガースコアの判定 ・バイタルサインの測定 ・母児標識 ・全身の観察(成熟徴候と奇形の有無) ・諸計測 ・点眼 臍処置 ・カンガルーケア ・母親、家族との面会
	3) 分娩直後の産婦の観察や援助を行うことができる。	(1)分娩第Ⅲ期の観察と援助 <ul style="list-style-type: none"> ・胎盤剥離徴候 ・胎盤娩出時刻、娩出後の子宮収縮 ・胎盤の観察と計測 ・子宮収縮促進、輪状マッサージ ・バイタルサインの測定 ・産婦に対する労いと安らぎの声かけ ・帰室時のオリエンテーション (2)分娩第Ⅳ期の観察と援助 <ul style="list-style-type: none"> ・子宮収縮 出血 ・裂傷の有無と部位 ・外陰部、肛門の状態 後陣痛 創部痛 ・一般状態と疲労 ・産婦の心理状態 ・疲労回復のための援助 ・環境の調整 ・分娩後の初回歩行

一般目標	行動目標	実習内容
<p>4. 産褥の正常な経過を理解し、必要な保健指導を学ぶ。 (実習目標 1、2)</p>	<p>1) 復古現象の観察および促進するための援助ができる。</p> <p>2) 母乳栄養の観察および促進するための援助ができる。</p> <p>3) 産褥期に起こりやすい感染症の予防のための援助が実施できる。</p> <p>4) 褥婦に必要な育児指導が実施できる。</p> <p>5) 帝王切開後の看護が実施できる。</p>	<p>(1)復古現象の助成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 早期離床 産褥体操 ・ 子宮収縮の状態 後陣痛の有無 ・ 授乳 悪露の量と性状 ・ 排泄状態 (膀胱、直腸の充満の有無) <p>(1)乳汁分泌促進の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母乳栄養の利点 ・ 乳管開通状況 乳頭の観察 ・ 乳汁分泌のメカニズム ・ ラッチオン ポジショニング ・ 授乳指導 保護乳首の使用 搾乳 ・ 栄養、水分の十分な摂取 ・ 睡眠、休息 ・ 精神の安定 <p>(1)産褥期に起こりやすい感染症の予防への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子宮内感染 ・ 会陰縫合創の感染 ・ 膀胱炎 ・ 乳腺炎 <p>(1)育児の知識と手技の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授乳指導 哺乳量測定 ・ 衣服の着脱 オムツの当て方 ・ 沐浴指導 臍の手当て ・ 環境整備～冷暖房の使い方 ・ 事故防止～窒息、添い寝 <p>(2)退院後の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活指導 ・ 社会資源の活用 <p>(1) 身体回復と合併症の予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バイタルサインの測定 ・ 疼痛・後陣痛の程度の観察と疼痛緩和 ・ 創部からの出血、浸出液の有無 ・ 輸液管理 尿量観察 保温 体位変換 ・ 悪露の観察・悪露交換 早期離床 <p>(2) 出産の振り返りと統合への看護</p>
<p>5. 新生児の生理的経過を理解し、新生児期に必要な基本的技術を身につける。 (実習目標 1、2)</p>	<p>1) 新生児の生理的特徴を述べることができる。</p>	<p>(1)新生児の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体計測、成熟度評価 ・ 生理的体重減少 生理的黄疸 ・ バイタルサインの測定 ・ 全身の観察 ・ 産瘤、頭血腫 ・ 原始反射 ・ 排泄 皮膚の状態

一般目標	行動目標	実習内容
6. 家族の役割や生命の尊厳について考え、自己の母性(父性)意識を高めることができる。 (実習目標4)	2) 新生児の日常生活の援助技術の目的・目標をふまえ、安全に実施できる。	(1)日常生活の援助技術 ・衣服・オムツ交換 ・身体の清潔(清拭、臍の消毒) ・授乳 哺乳量の測定法 ・1回哺乳量の目安 排気の方法 ・環境の調節 ・K2シロップの与薬 (2)感染防止 ・手洗い ・環境整備 ・使用物品の清潔、消毒 (3)事故防止 ・吐物による誤嚥予防 ・臥床時の体位 ・転落事故の防止
	1) 自己の母性観(父性観)を述べることができる。	(1)妊婦・産婦・褥婦との関わり ・出産に対する対象や家族の思い ・母親役割、父親役割 ・生命の尊厳 生命倫理

4. 実習時間(単位)

総時間 90時間(2単位)

(1) 臨地実習 63時間

(2) 学内実習 27時間(0.6単位)

目的: 臨地での学びを振り返り、学びを共有する。

内容: ①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い翌日の援助に繋げる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。

③教員の指導のもと、看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

<実習期間および時間>

	9:00~9:45	9:45~10:30	10:30~11:15	11:15~12:00	12:00~12:45	13:45~14:30	14:30~15:15	15:15~16:00	16:00~16:45
1日目	学内実習								
2日目	臨地実習							学内実習	
3日目	臨地実習							学内実習	
4日目	臨地実習							学内実習	
5日目	臨地実習							学内実習	
6日目	臨地実習							学内実習	
7日目	臨地実習							学内実習	
8日目	臨地実習							学内実習	
9日目	臨地実習							学内実習	
10日目	臨地実習							学内実習	

5. 実習方法

- ・周産期の中でも特に産褥期の母子の看護を中心に実習する。
- ・正常に経過すると思われる母子を受け持ち、健康（正常）に経過させるための援助について学習する。
- ・対象と実習の状況をふまえ、2例目も積極的に受け持ち看護過程を展開していく。

1) 実習スケジュール

- (1) 実習1日目は学内実習とし、新生児の観察、沐浴の指導技術の実践を行う。実習2日目からは病棟実習とし、母性看護全体の把握と、基本的な母性看護特有の看護技術の習得を目的とする。多くの看護・指導を見学し、受け持ち事例への看護の基盤づくりをし、一度見学したものについては次回から積極的に実施する。実習1日目欠席した場合は、学内実習時間で、新生児の観察、沐浴の指導技術の実践を行う。
対象の褥婦がいる場合、受け持って看護過程を展開する。
- (2) 褥婦1名を受け持ち、看護過程を展開する。
- (3) カンファレンスは実習最終日に意見発表を行う。

2) 受け持ち褥婦について

- (1) 入院時または分娩時から受け持てることが望ましいが、産褥期にできるだけ関わられる日数が多くなることを重点に考える。褥婦の許可が得られる場合は学生2名で受け持つ場合もある。
- (2) 受け持ちの事例がない学生は、自己の不足な点、未経験な技術の習得など、各自課題をもって実習に臨むこと。

見学できる項目 ～ 沐浴・直接授乳・母子同室指導・退院指導・退院診察・マタニティ教室・創部の観察・初回歩行・出産直後の児処置

実施できる項目 ～ 沐浴指導・その他保健指導・分娩期の援助・直接授乳時の指導・褥婦および新生児の清拭・児の体重測定・ミノルタ測定・沐浴

3) 妊婦健康診査について

- ・妊婦健康診査は、必要な看護技術の習得と妊娠の生理的な経過を理解することを目的とし、原則学内で実習を行う。
- ・2～9日目の臨地実習時間に、学内で妊婦健康診査に関する視聴覚教材を用いて学習する。

4) その他

- ・分娩を見学する際は、1人の産婦に2人以上の学生はつかないほうが望ましい。やむを得ない場合は役割分担を考え、産婦の負担にならないように配慮する。
- ・分娩の際には実習時間外であっても実習することができる。(昼休み・放課後)ただし、その際には指導者の許可を得て、教員にその旨を必ず報告すること。
- ・2週間健診については産褥期の継続した保健活動について理解を深めると共に、退院後の継続看護の必要性について学ぶことを目的とし、受け持ち褥婦が退院後外来に健診にくる機会などがあれば見学を行う。
- ・男子学生の母性看護学実習については、女子学生とおおむね変わりはない。しかし、生殖器を露出する援助については、指導者に相談の上、褥婦の了解をとること。
- ・実習前の課題
モデル人形を使って沐浴練習を十分に行い、グループ毎に担当教員の指導を受ける。
保健指導に使用するパンフレットについては、実習開始前にクラスで基礎となるものを作成し担当教員が確認する。沐浴のパンフレットは病棟スタッフの確認を受ける。作成したパンフレットを活用し、実習においては各自個別性をふまえて受け持ち褥婦用のパンフレットとする。
新たに追加したいものについては事前に指導者、担当教員へ相談する。

6. 実習記録

- 1) 実習の記録の書式を参考に作成する。
- 2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了の翌日に提出とする。

7. 実習評価

母性看護学実習評価表を用いて評価する。

母性看護学実習 評価表

第 期生 学籍番号 学生氏名

実習場所

実習期間 年 月 日 ~ 年 月 日

Ver.2025.4

項目	評価対象	評価基準 5点	評価基準 4点	評価基準 3点	評価基準 2~0点	点数
1 2 3 4 5 6 7	周産期の対象理解	記録Ⅱ 受持婦 周産期の対象を社会的背景を踏まえて捉え、以下の項目について記載することができる <input type="checkbox"/> 妊娠・出産歴 <input type="checkbox"/> 既往歴 <input type="checkbox"/> 家族構成・家族歴 <input type="checkbox"/> 就労の有無 <input type="checkbox"/> 日常生活状況	周産期の対象を社会的背景を踏まえて捉えようとしているが、不十分な項目が1項目ある	周産期の対象を社会的背景を踏まえて捉えようとしているが、不十分な項目が2~3項目ある	周産期の対象を社会的背景を踏まえて捉えようとしているが、不十分な項目が4項目以上ある	0
		基本的 ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて全ての項目における情報を記載できている。また、今後予測されることも踏まえた情報収集や分析ができている	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて全ての項目における情報を概ね記載することができる	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて情報を概ね記載できているが、不足な項目が複数ある	ヘンダーソンの看護理論に基づく14項目のニーズの枠組みを用いて情報を記載することができていない	2
		援助 評価の実 妊娠の生理的変化や、妊娠週数に応じた検査、診察について述べるができる <input type="checkbox"/> 腹痛・体重・血圧・浮腫 <input type="checkbox"/> 尿検査 <input type="checkbox"/> 血液検査 <input type="checkbox"/> レオポルド触診法 <input type="checkbox"/> NST <input type="checkbox"/> 内診 <input type="checkbox"/> 超音波検査	妊娠の生理的変化や、妊娠週数に応じた検査、診察について不十分な項目が1~2項目ある	妊娠の生理的変化や、妊娠週数に応じた検査、診察について不十分な項目が3~4項目ある	妊娠の生理的変化や、妊娠週数に応じた検査、診察を観察し、結果を評価考察するのに不十分な項目が5項目以上ある	1
		観察 分娩各期に応じた観察を十分行い、ノート上で正常異常について考察することができる <input type="checkbox"/> 陣痛 <input type="checkbox"/> 子宮口開大 <input type="checkbox"/> 児心音 <input type="checkbox"/> 出血量 <input type="checkbox"/> 破水・羊水 <input type="checkbox"/> 排胎露露 <input type="checkbox"/> 産痛 <input type="checkbox"/> バイタルサイン	分娩各期に応じた観察のうちノート上で正常異常について考察するのが不十分な項目が1~2項目ある	分娩各期に応じた観察のうちノート上で正常異常について考察するのが不十分な項目が3~4項目ある	分娩各期に応じた観察のうち不十分な項目が5項目以上ある	1
		実習 ノート 産褥期の褥婦の生理的変化を観察し、以下の項目についてアセスメントすることができる <input type="checkbox"/> 子宮復古 <input type="checkbox"/> 悪露 <input type="checkbox"/> 後陣痛 <input type="checkbox"/> 乳汁分泌 <input type="checkbox"/> 活動・休息 <input type="checkbox"/> バイタルサイン	産褥期の褥婦の生理的変化を観察することができるが、アセスメントが不十分な項目が1~2項目ある	産褥期の褥婦の生理的変化を観察することができるが、アセスメントが不十分な項目が3~4項目ある	産褥期の褥婦の生理的変化を観察することができない、またはアセスメントが不十分な項目が5項目以上ある	1
		全体 新生児の生理的特徴を述べ、アセスメントすることができる <input type="checkbox"/> 身体計測 <input type="checkbox"/> 成熟度評価 <input type="checkbox"/> 生理的体重減少 <input type="checkbox"/> 生理的黄疸 <input type="checkbox"/> 全身観察 <input type="checkbox"/> 産瘤・頭血腫 <input type="checkbox"/> 原始反射 <input type="checkbox"/> 排泄物の性状 <input type="checkbox"/> 哺乳量	新生児の生理的特徴を述べることができるが、アセスメントが不十分な項目が1~3項目ある	新生児の生理的特徴を述べることができるが、アセスメントが不十分な項目が4~6項目ある	新生児の生理的特徴を述べることができない、またはアセスメントが不十分な項目が7項目以上ある	1
		産褥期から産褥期において必要な社会資源について、ノート上で十分記載することができる	産褥期から産褥期において必要な社会資源について、少しの助言を受け記載することができる	産褥期から産褥期において必要な社会資源についてかなりの助言を受け記載することができる	産褥期から産褥期において必要な社会資源について、記載できない	0
8	立案 計画 計看護 観護 連図 ウエルネスの視点を持ち、対象に応じた、個別性のある看護計画を立案することができる	ウエルネスの視点を持ち、少しの助言を受けて対象に応じた個別性のある看護計画を立案することができる	ウエルネスの視点を持ち、かなりの助言を受けて対象に応じた個別性のある看護計画を立案することができる	助言を受けてもウエルネスの視点を持つことができない、または看護計画の立案ができない	0	
9 10 11 12 13 14 15	看護 実践 ・指 導と 評価 実 察評実援 価際助 考・の 異常妊婦に対する保健指導と、健康な経過をたどる妊婦の日常生活と関連付けた保健指導の必要性を述べるができる	母子相互作用を理解し、産婦や家族の心理を配慮した援助を実践・評価できる	母子相互作用については理解しており、産婦や家族の心理を配慮した援助は少しの助言を受け実践・評価できる	母子相互作用については理解しているが、産婦や家族の心理を配慮した援助はかなりの助言を受け実践・評価できる	母子相互作用について理解しておらず、産婦や家族の心理を配慮した援助の実践ができない	0
		褥婦の退行性変化をふまえた回復促進の援助について考え実践・評価できる <input type="checkbox"/> 子宮復古 <input type="checkbox"/> 悪露 <input type="checkbox"/> 後陣痛	褥婦の退行性変化をふまえた回復促進の援助について不十分な項目が1項目ある	褥婦の退行性変化をふまえた回復促進の援助について不十分な項目が2項目ある	褥婦の退行性変化をふまえた回復促進の援助について実践できない	0
		授乳の観察を行い、指導の必要性を考え実践・評価できる <input type="checkbox"/> 抱き方 <input type="checkbox"/> 哺乳回数 <input type="checkbox"/> ラッチオン <input type="checkbox"/> 乳房マッサージ <input type="checkbox"/> 乳頭亀裂の対応	授乳の観察を行い、指導の必要性を考え実践・評価する過程において不十分な項目が1~2項目ある	授乳の観察を行い、指導の必要性を考え実践・評価する過程において不十分な項目が3~4項目ある	授乳の観察や指導の必要性が考えられず実践・評価できない	0
		産褥期に起こりやすい感染症予防のための援助を考え実践・評価できる <input type="checkbox"/> バット交換の声かけ <input type="checkbox"/> 排泄の促し <input type="checkbox"/> 乳房の緊満感の確認 <input type="checkbox"/> 創部の観察	産褥期に起こりやすい感染症予防のための援助を考え実践・評価する過程において不十分な項目が1項目ある	産褥期に起こりやすい感染症予防のための援助を考え実践・評価する過程において不十分な項目が2~3項目ある	産褥期に起こりやすい感染症予防のための援助を考えられず実践・評価できない	0
		産褥期に必要な育児技術(沐浴、衣服の着脱、おむつ交換など)について観察を行うことができ、指導の必要性を考え実践・評価できる	産褥期に必要な育児技術(沐浴、衣服の着脱、おむつ交換など)について観察を行うことができ、助言を受け指導の必要性を考え実践・評価できる	産褥期に必要な育児技術(沐浴、衣服の着脱、おむつ交換など)について助言を受け観察や指導を実践・評価できる	産褥期に必要な育児技術(沐浴、衣服の着脱、おむつ交換など)について助言を受けても観察や指導を実践できない	0
		新生児の援助技術を根拠に基づいて安全に実践できる <input type="checkbox"/> 抱き方 <input type="checkbox"/> 哺乳瓶による哺乳 <input type="checkbox"/> おむつ交換 <input type="checkbox"/> 清拭 <input type="checkbox"/> 更衣	新生児の援助技術のうち不十分な項目が1項目ある	新生児の援助技術のうち不十分な項目が2~3項目ある	新生児の援助技術のうち不十分な項目が4項目以上ある	2
		16	看護 観 生命の尊厳や母性(女性)について自己の考えを実習と関連させてミーティングなどで述べ、ノート上で記載することができる	一般的な生命の尊厳や母性(女性)についてミーティングなどで述べ、ノート上で記載することができる	一般的な生命の尊厳や母性(女性)について、ノート上で記載はされていないが、ミーティングなどで述べるができる	生命の尊厳や母性(女性)についてミーティングやノート上で表現することができない
17 18 19 20	態度 行動 看護師や教員へ報告・連絡・相談を、以下の項目に沿って実践できる <input type="checkbox"/> 必要な内容を簡潔に伝えることができる <input type="checkbox"/> 援助や治療の前後や患者の状況に応じた適切なタイミングで実施できる ・実習に必要な学習・練習に取り組み、十分に準備を整えて臨んでいる ・わからないところはすぐに調べたり質問し、早期に解決しようとしている (アドバイスの赤ペンに対し、調べて返答している) ・自らの体調を整えて実習に臨み、全日出席している ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対処をしている 学習者としての自覚を持ち、以下の項目全てにおいて取り組むことができる <input type="checkbox"/> 実習ノートの整理 <input type="checkbox"/> 課題や提出物の期限を守る <input type="checkbox"/> 常に身だしなみを整えている <input type="checkbox"/> 教員・病棟スタッフとのコミュニケーション(態度・言葉遣い・表情) <input type="checkbox"/> 学内実習 <input type="checkbox"/> 学内ミーティング	報告・連絡・相談において不十分な項目が1項目ある	報告・連絡・相談において不十分な項目が2項目ある	報告・連絡・相談、全ての項目において不十分である	1	
		・実習に必要な学習・練習に取り組み、準備を整えて臨んでいる ・わからないところを調べたり質問し、解決しようとしているが時間がかかる	・実習に必要な学習・練習の取り組みがやや不足している ・わからないところを調べたり質問し、解決しようとしているが時間がかかる	・実習に必要な学習・練習の取り組みが不足している ・わからないところを調べたり質問し、解決しようとする取り組みが出来ていないことが多い	0	
		・自らの体調を整えて実習に臨んだが、遅刻・早退・欠席があった ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対処をしている	・自らの体調を整えて実習に臨んだが、遅刻・早退・欠席があった ・体調がすぐれない時は、自ら教員や病棟スタッフに申し出て、必要な対処をしている	・自らの体調を整えて実習に臨んだが、2日以上遅刻・早退・欠席があった	・体調がすぐれない時に必要な対処ができない	0
		実習の取り組みにおいて、不十分な項目が1項目以上ある	以下の項目が該当する <input type="checkbox"/> ノートの整理、課題や提出物の期限を複数回守れない <input type="checkbox"/> 身だしなみが乱れており実習に適した状態に改善することができない <input type="checkbox"/> 実習時間中の居眠り、ミーティングでの消極的姿勢、実習グループ全体の活動への不参加などが複数回ある <input type="checkbox"/> 学習者として適切なコミュニケーション(姿勢・言葉遣い・表情)が取れないことが複数回ある <input type="checkbox"/> 個人情報管理ができない <input type="checkbox"/> 当学院の倫理規定に反する行動がある	0		

看護部長	看護師長	指導者	担当教員	合計
	出席すべき時間数	時間	出席時間数	時間
			欠席時間数	時間
				/100点